

# 咲くっと

sakutto  
No.35  
令和6年



ながいずみわくわく塾 リフレッシュ ヨガ



くすのぎ学級 飾り巻き寿司クラブ

日本社会における父親のあり方を考える …… P2～3  
 新米パパの育児奮闘記インタビュー …… P4～5  
 好きなことを探して 自分磨き! …… P6～7  
 おすすめの本の紹介  
 第3次長泉町男女共同参画プランの紹介 …… P8



# 男性学<sup>※</sup>の視点から 日本社会における父親のあり方を考える

大妻女子大学人間関係学部准教授 田中 俊之 さん

※男性学：男性が男性だから抱えてしまう問題を扱った学問。この視点から、父親のあり方をどうしていけばいいのかが研究している。・・・田中さんも、妻とフルタイムの共働きをしており、7歳と4歳の男の子の育児中で、当事者問題でもあるとのこと。

## 第一子出産後も就業を継続する女性の割合の変化

|          |      |      |      |      |     |
|----------|------|------|------|------|-----|
| 1985～89年 | 5.5  | 18.4 | 37.4 | 35.3 | 33  |
| 1990～91年 | 8.1  | 16.3 | 16.3 | 33.6 | 4.3 |
| 1995～99年 | 11.2 | 13.0 | 39.3 | 31.3 | 5.2 |
| 2000～04年 | 15.3 | 12.2 | 40.3 | 26.9 | 5.3 |
| 2010～14年 | 21.1 | 10.2 | 40.8 | 22.3 | 5.6 |
| 2015～19年 | 31.6 | 10.8 | 31.1 | 21.2 | 5.2 |
| 2015～19年 | 42.6 | 11.2 | 23.6 | 17.4 | 5.2 |

■就業継続(育児休業利用) ■就業継続(育児休業利用なし) ■出産退職  
■妊娠前から無職 ■不詳

国立社会保障・人口問題研究所 2022『第16回出生動向基本調査』より

出産後女性の就労率が増加

近年、男性が積極的に育児をしようという流れになっていきます。劇的にフルタイムの共働きが増えているからです。1990年代終わりまでは、基本的に女性は結婚・妊娠・出産で仕事を辞める社会でした。出産しても働く女性は4人に1人程度でした。2010年には4割、2015年になると更に1割増え5割の女性が、結婚・妊娠・出産を経ても就業継続しています。今はさらに増えているため、このことを前提に日本社会を作っていくことを考える必要が出てきています。

共働きでもしわ寄せは女性に

「ジェンダーギャップ」管理職に占める女性の割合は8.5%と非常に低いです。さらに、男性管理職の9割は結婚していませんが、女性管理職は3割しか結婚していません。女性が会社で出世するためには、家事・育児の負担が重く、結婚や出産を諦めなければならぬという現実があるからです。

「性別役割分業」日本社会は、男は仕事、女は家庭という性別役割分業を基本としており、女性のキャリアや経済的自立を阻害しています。「もはや男性中心では社会が回らない」、「考えを変えなければ」という流れの中で、女性が働くことが増えました。しかし、家事や育児の負担は変わらず、妊娠や出産を理由に嫌がらせを受けること(マタニティハラスメント)もあります。

「男もパタハラ」男性も育児に参加する必要がありますが、社会的な圧力や制度的な障害(パタニティハラスメント)があります。日本社会は、その時代のルールに従わない人に厳しいため、性別役割分業の考え方を変えることが必要です。ニュースなどで「男は仕事、女は家庭」という考え方を否定する人が増えました」と報道しています。

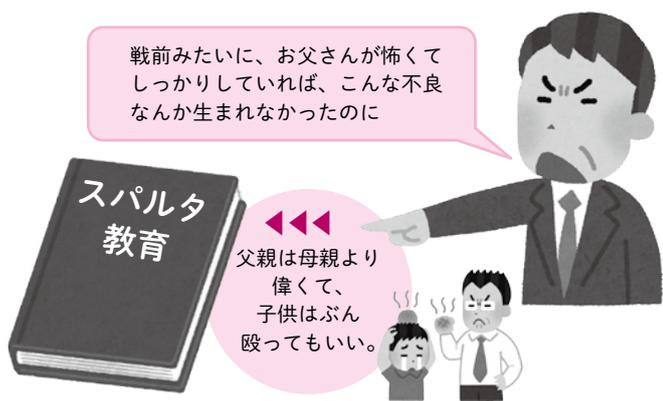
しかし、男女平等なはずの社会で、こういう正解ありきの質問が繰り返される裏に、今抱えている問題が垣間見えるのです。



父親も変わらなくては???

「男は競争、女は協調?」日本では、社会人とは、定職に就き、生活できる収入を得て自立している人を指し、子どもや退職者は社会人と呼ばれません。社会には地域や家庭も含まれているという視点がないからです。男性は一生懸命働くことが前提とされ、平日の昼間に子どもを連れていけると怪しまれたり、育児休業を取ると非難されたりすることもあります。女性は結婚や出産をすると家事・育児の負担が重くなり、時短勤務やパートで働くことが多くなります。これは男女の賃金格差が大きいことが原因です。日本は男性に競争、女性に協調を求める性別役割分業の考え方を変える必要があります。

「家制度はなくなったけれど」戦前の日本には家制度があり、父親は家長として権威があり、家族の全てを決めることができました。戦後は民主主義が導入され、家制度は廃止されました。1960年代には、マイホームパパという言葉が流行り、子どもに優しく接する父親が理想とされました。父親像は変化しましたが、何か問題が出てくると「きちんと父性を持って接しないからだ」という一部の時代錯誤な主張をする人の声が大きくなる場合があります。そういった動きは常にあることに注意したいものです。



「イクメン」1970年代から80年代には、男性の育児参加を目指す団体ができましたが、社会的にはあまり受け入れられませんでした。今も、企業での男性育児参加推進活動に男性が関わることは少なく、多くは女性です。イクメンという言葉が流行っていますが、実は男性の育児参加を正しく理解しておらず、育児をすると仕事の効率が上がるというイクメン像が歓迎されています。しかし、これは現実的ではありません。育児の時間を取るなら成果が落ちることを受け入れるべきです。

### 子育てで得られるもの

「アタッチメント」親と子の情緒的な結びつきのことを言います。子どもは「生後3カ月頃までは誰にでも」、「6カ月から2〜3歳頃までは自分を守ってくれる人を見定めて」愛着反応を示すようになります。この時期に父親が育児に関わらないと、子どもは父親に愛着を抱かなくなり、「ママ」しかできないことが増えていきます。父親は育児休業を取って、初期の育児にしっかり関わるのが大切です。

「利他」日本では男子は利己的（いい大学、いい会社、競争に勝て）、女子は利他的（みんな

と仲良く、女子力高く）に生きるよう育てられてきました。今の女の子たちは以前よりも自立的であり、男性にも他者に対する思いやりが求められています。実際、近年のアニメでは、プリンセスは自立的に描かれています。私（田中）も、子どものために（利他）と思ってしていたことが、実は親の好みを押し付けていた（利己）ことが分かったという経験がありました。子どもは自我がある他人のため、その子がどうしたいのかを考える必要があります。

### 子育ては発見の場

子育てをするときに、情報を集め、知識をつければ全てがうまくいくとは限りません。知識は一般論であり、目の前の子どもに当てはまるかどうかは確認する必要があります。また、こうでなければいけないというルールにとらわれると、子どもを無視してしまします。子どもは人間であり、自我がある他者であることを認めることが大切です。計画どおりに物事を進める仕事と異なり、子育ては自分が変わるといふ発見の場です。自分ほだめだなどと思う経験が必要です。その経験から新しい価値観や役割を見つけることができるでしょう。



**講師紹介**  
田中 俊之さん  
大妻女子大学人間関係学部  
准教授

1975年、東京都生まれ。男性学を主な研究分野とする。男性が男性だからこそ抱える問題を扱う『男性学』研究の第一人者。

### 編集後記

日本の今の閉塞感、どこから来ているのかなと考えていたのですが、田中さんのお話をうかがい、時代に合わないやり方を続けてきたからかもしれないと気づきました。日本が変わり、男性学の必要がなくなるまで、先生には活躍していただきたいと思いました。

～新米パパの育児奮闘記インタビュー～



# 育休が自分を成長させてくれた

## プロフィール

### ■木内 瑞己さん (写真左側)

- ・勤務先：長泉町役場建設計画課
- ・家族：本人、妻、2歳息子
- ・育休期間：9カ月間

### ■尾科 大輔さん (写真右側)

- ・勤務先：協和キリン (研究職)
- ・家族：本人、妻、2歳娘
- ・育休期間：3週間 (公休含む)



木内さんご家族



尾科さんご家族

政府は令和7年度までに男性育児休業取得率30%という目標を掲げています。令和4年10月からは産後パパ育休が制定され、パパも育児へ積極的に参加することで、多くの方が育児と仕事を両立しながら、いきいきと生活することを目的としています。

今回は、町内に勤務・在住の育休を経験された2人にインタビューさせていただきました。

**育休取得を後押ししたものはありますか？**

(尾科) 私の職場は男性が少なく、上司も自分たちが制度を活用して社内発信していきたいと前向きでした。制度をいろいろと調べるなど全面的にサポートしてくれたおかげで、スムーズに育休を取得できました。また、育休中は育児休業給付金が支給されるので、特にお金の心配もありませんでした。

(木内) 職場の先輩が2年間育休を取得し、育休後も以前と変わりなく職場復帰している姿を見ていたので、私も自然な流れで育休を取得しようと思っていました。

**育休取得にあたり、心配なことはありましたか？**

(尾科) 自分にしかできない仕事があったので、長期間休むことには不安がありました。育休をきっかけに、なるべく自分のスキルは職場のメンバーにも共有してサポート体制を整えてもらえるように心がけました。

(木内) 育休を取得すると周囲から冷たくされるなどのハラコメントがあると聞いたことがありました。しかし、私の職場は育休取得に理解があり、普段と変わらず温かく接してくれました。

**育休中、奥さまと家事などの分担はどうされてましたか？**

**(尾科)** 私は研究職という仕事柄、料理をすると計量や手順にこだわり過ぎてしまうので、基本的に料理は妻の担当でした。私はお皿洗いや洗濯などを担当しました。今も継続しています。

**(木内)** 出産後、まずは妻が体を休めて、体調回復に専念できるように、授乳以外のことは何でも率先して取り組みました。妻の体調が回復してからは、できる方ができる範囲で育児も家事もやるようにしていました。

**育休中に工夫したこと・心がけたことはありますか？**

**(尾科)** 子どもの体調が悪くなった時、自分が運転して病院へ連れて行けるように、お酒を飲まないよう、心がけていました。また、床には柔らかいマットを敷き詰めて、子どもが転倒しても大げげにならないように気をつけました。

**(木内)** 生後9カ月間、親子3人で過ごせたのは贅沢なことですが、時には育児・家事から解放されたいと思うこともありました。妻と相談して、定期的にお互い1人になる時間を作るようにしました。私はファイナンシャルプランナーの資格取得のため、家族が寝ている早朝や夜

などに勉強をしたり、時には近場で車中泊をしたりすることもありました。気持ちをリセットすることで、マイナスイメージにならずに育児に取り組むことができました。

**育休中に印象に残った出来事はありますか？**

**(尾科)** 子どもの首が据わっていない中での沐浴は、どうしても良いかわからず、自分がパニックになってしまいました。また、夜泣きや夜間授乳も妻と一緒に対応していたので、昼夜の区別がなくなることや初めて経験しました。

**(木内)** 人生で一度しかない我が子の初めての瞬間を、自分の目で見られたことです。寝返りや、つかまり立ちなどができた時は感動して涙が出ました。

**育休を終えて、ご自身の意識や行動に変化はありましたか？**

**(尾科)** 重い荷物は私が持つように心がけています。また、妻は仕事で早番の時もあるので、保育園の送迎は近くに住む妻の両親と分担しながら行っています。

**(木内)** 入園当初は子どもが体調をよく崩して保育園からお迎えの連絡があり、仕事を休むことがありました。TODORIS

トを作って進捗管理し、なるべく翌日に残さないような仕事のやり方をするようになりました。

**育休を振り返って、あの時こうすれば良かったと思うことはありますか？**

**(尾科)** 当時、コロナ禍で町主催のパパ・ママ学級に参加できませんでした。事前に沐浴体験会などに参加できていたら慌てずに対応できたかもしれせん。

**(木内)** あの時こうすればよかったなんて思わないくらい充実し、自分の成長につながる体験になりました。

**今後、より多くの方が育休を取得できるように、町などへの期待・提案などありますか？**

**(尾科)** 育休中に何をしたらよいかわからないパパもいるようです。どんなことが必要か知ることができたり、体験談を聞けたりすると、より充実した育休を過ごせると思います。

**(木内)** 日本では男性育休取得率は低いですが、私たち世代が積極的に育休を取得して育児をする中で、後輩が後に続いて、夫婦で育児することが当たり前の社会になることを期待します。また、自分の育休経験を

どこかで発信したいと思っていたので、今回、話す機会をいただけで嬉しいです。

**これから育休取得を検討される方に、ひと言お願いします。**

**(尾科)** 妊娠中から赤ちゃんに声かけして、積極的にコミュニケーションをとってあげてください！

**(木内)** 仕事の代わりはいくらでもいますが、奥さんと子どもにとつて、あなたは1人しかいません！



### 編集後記

楽しそうに育休の話をする2人の姿が印象的でした。町は今年度から第2子の保育料を無償化するなど制度が整備されています。その一方で、今回パパ同士の情報交換の場を求め声があることもわかりました。パパ・ママが育児・仕事をしながらいきいき生活できる社会になることを期待しています。

# 好きなことを探して自分磨き!



☆長泉わくわく塾  
「リフレッシュ ヨガ」 山下さん親子

☆くすのき学級  
「飾り巻き寿司クラブ」 平瀬さん



町の講座で好きなことを見つけ、楽しくいきいきと活動している町民にインタビュー!!  
自分磨きをしながら、家族とのコミュニケーションも広がっていました。



可愛いプードル  
と肉球



材料を確認する平瀬さん

**受講してみてもいいかな?**  
男性が僕だけだったのが少しショックでした。材料は先生が分量を量って小分けしてあったので、やりやすかったです。家で作るには、材料の事前準備が大変なので、ゼロから自分でやるように、いろいろな技術を学べたらいいなと思いました。

**飾り巻き寿司クラブ 平瀬さん**  
**この講座に参加した理由は?**  
我が家では、毎年大晦日に、家族で20本ほど巻き寿司を作ります。お正月にみんなで食べています。今回、巻き寿司のバリエーションを増やしたい、もっとテクニックを覚えられると思い、参加しました。

**日頃の家事分担は?**  
結婚して共働きだった頃はどちらかが残業などで遅くなるので、早く帰った方が料理を作っていました。当時、食材がセツトになっていて宅配を利用していたので、私もレシピを見れば料理を作ることができました。子どもたちとある日、「明日、何して遊ぶ?」という話をしていたら、妻の機嫌が悪くなりました。そして、妻から「私は365日休みがない」と言われました。そのとき、家族で話し合いをして、土曜日の朝は小3の息子、昼は中1の娘、夜は私が食事を作り、家事を分担しようということになりました。その後、私は単身赴任が長く続いたので、子育ては、妻に任せきりになってしまいました。

退職してから土曜、日曜は私が料理を作ることになっています。洗濯は、妻が洗濯機にセツトし、洗い終わったら私が干しています。床掃除は、2階は妻、1階は私というように手分けしています。1階には風呂掃除も含まれています。

家事は仕事だと考えていたので、家族で分担するのは当たり前だと思っています。

**編集後記**  
飾り巻き寿司を作る時、平瀬さんの手際の良さに驚きました。家族に喜んでもらいたいと熱心に学ぶ姿も素敵でした。

また、家族の声をしっかり受け止めて、よく話し合うことは、お互いの気持ちを理解するのに大切なことだと思います。

**この講座に参加することによって家族の反応は?**  
「毎年、お寿司を巻いているんだから、お手のものですよ。楽しんで」と言われました。初めて作った飾り巻き寿司を、妻と娘に食べてもらったら「見た目がきれいで良くできていますね。」という感想をもらいました。今度、娘の誕生日に、またチャレンジしてみたいと思っています。



作り方を真剣に聞く皆さん

## リフレッシュヨガ

### 山下さん親子



仲良し親子でヨガにチャレンジ

### この講座に、家族3人で

#### 参加した理由は？

**(妻)** 私は以前から長泉わくわく塾のいろいろな講座に参加していました。今回の講座募集を見たとき、何か夫と一緒にできることがないかと考え、ヨガに申し込みました。ちょうど火曜日は、娘の都合もよかったので、一緒に参加することになりました。娘は、ヨガやピラティスに興味があったので、ぴったりの講座でした。

#### 受講してみて

**(妻)** ヨガをやる前と後では、気分や体の動きが全く違います。体が軽やかになり、胸も開くので、呼吸もしやすくなって、火曜日の午後は活動的になります。ヨガの効果を実感できるので、3人でもっと回数を増や

たいねと話しています。

**(夫)** 私は、足がむくんでいるという意識がぜんぜんなかったのですが、ヨガをやって初めて、自分の足は普段むくんでいたのだと気づきました。ヨガが終わった後は、毎回靴がぶかぶかになり、凄く変わるのを実感しました。腰痛予防にもなるので、時々、寝る前に布団の上で足先を動かすなどポーズの復習をしています。

**(娘)** 私は、元々体がすごく硬かったのですが、ヨガを始めてから体が少しずつ軟らかくなってきて、できるポーズが増えました。

#### 日頃、家庭で

#### 気をつけていることは？

**(妻)** 夫はいつも子育てに協力的で、娘が生まれたとき、育児をかなり取ってくれました。2年ぐらい前は、まだ育児制度もなかったため、ためてあった有給休暇を使って、長く休むという取り方でした。

初めての育児で何もわからない状態だったので、夫とよく話し合い、2人が同じスタンスで子育てするようにしてきました。子どもの可能性を潰すような言動をしないように気をつけていこうと話しました。うちは褒めて長所を伸ばすという声

かけが多かったです。

ちょうど娘の言葉の世界が広がってきた2歳頃から、娘と一緒に餃子作りをやってきました。2人でたくさんおしゃべりしながらゆっくり時間をかけて作っていました。今思うと、幼い頃のとて愛しい思い出です。娘が2歳のときに息子が生まれましたが、娘には、「あなたは赤ちゃん（息子）の面倒をみるから」と話しました。そうしたら、娘はすごくよく息子の面倒をみてくれました。息子は娘を慕って育ち、今でも姉弟で仲良しです。

息子の育児で私が寝不足だったとき、夫はよく娘と出かけたリ、一緒に遊んでくれたりしました。また、私が小学校や長泉町子ども会育成連合会の役員をやったときも一緒に手伝ったり、子どもたちの世話をしたりして支えてくれました。おかげで安心して役員活動をすることができました。そういう積み重ねがあったので、家族が自然に仲良くできているのかなと思います。

今、娘は大学生、息子は高校生ですが、みんなでゴルフに行ったり、テニスをやったり、家族で一緒に過ごす時間を大切にしています。

## 編集後記

3人でヨガに参加している仲良し親子の山下さん。ヨガを通して、自身の体と対話されているようでした。

子どもが成長すると親子の間わりが難しくなります。良い関係を築くためには幼いときからの接し方が大切だと感じました。忙しい子育て中でもコミュニケーションを大切にしながら、家族の絆を深めてきた様子が伝わってきました。

好きなことを見つけ、自分磨きをしながら、充実した生活を送っている皆さんに会って、私も何かにチャレンジしたくなりました。



指先までピーン 深い呼吸も忘れずに!!

# 「自分らしく生きる」「相手の自分らしさを認める」

そんな生き方をしたい時の参考になる本を紹介します



## ぼくのスカート



人は違って当たり前であり、その違いこそが何物にも代えがたい個性です。それを大切にできる社会の一員となれるような子どもたちの成長を目指す本です。

好きなものは好きと誰にも気兼ねなく正直に堂々と言え、自分の好きな装いができる社会は素晴らしいとあります。小さな子が読むにも、また、読み聞かせするのもいい本です。

○ピーターブラウン 文・絵  
○日高庸晴 訳・監修 ○小学館(2023年)

## みんな自分らしくいるための はじめてのLGBT



性の多様性について扱った本です。性的マイノリティ側でなく、LGBTでもない人にとっても、はっと気づかせてくれることがたくさんあります。

自分とは違う誰かの事ではなく身近にあることだと気づくことができます。性別やセクシュアリティを越えてみんなが共感できることがあるということがわかります。どなたにもおすすめしたい本です。

○ピーターブラウン 文・絵  
○日高庸晴 訳・監修 ○小学館(2023年)

## ついでにジェントルメン



短編の小説からなる本です。亡くなっている小説家が登場するなど不思議な展開もあるのですが、どの話も読み進むうちにいい意味で裏切られることで自分の偏見に気づかされます。

その中で、周囲の見方を変えてみようと思わせてくれます。どなたでも楽しめる本です。

○榎本麻子 著 ○文藝春秋(2022年)

## がんばりすぎないお仕事復帰 BOOK



育児中の不安がスーッと解消される本です。無理せず、普通に子育てしながら働き続けたい人に向けて、知っておくと便利な情報がわかりやすくまとめられています。読みやすく、夫婦の協力体制の取り方の参考にもなります。法制度についても触られています。

産休・育児中の女性、その上司や同僚におすすめです。

○藤井佐和子 監修 OKADOKAWA(2022年)  
○キャリアアドバイザーMamari 監修

## 他にもおすすめ したい本

- わたしたち ○落合恵子 著 ○河出書房新社(2022年)
- 家事は大変って気づきましたか? ○阿古真理 著 ○垂紀書房(2022年)
- もう別れてもいいですか ○垣谷美雨 著 ○中央公論新社(2022年)

※ここで紹介した本は町民図書館で借りることができます。

## 「咲くっと」編集委員を募集します

長泉町女と男の情報紙「咲くっと」では、男女共同参画に関する記事を制作して下さる方を募集しています。文章を書く、写真を撮る、紙面のレイアウトをするなど「咲くっと」の紙面づくりに参加してみませんか。編集委員はみんな素人です。

ぜひあなたの力をお貸しください。

ご興味がある方は生涯学習課まで  
電話またはメールにてお知らせください。

問い合わせ 生涯学習課(コミュニティながいずみ内)

電話/055-986-2289 メール/syogai@town.nagaizumi.lg.jp



ホームページ



長泉町では、  
令和5年3月に  
「第3次長泉町  
男女共同参画プラン」  
を策定しました。

長泉町のホームページで  
公開してい  
ます。ぜひ、  
ご覧ください。

